８９　秋の学会
原子核三者若手
三者総会議案書

時：　１０月１３日　１７：１５－２０：００
所：　宮崎大学　Ｂ会場
センター：　京都大学

○夏の学校準備校　・・・　大阪大学　p 2
○学体センター　・・・　神戸大学　素粒子　p 3
×私大問題　・・・　千葉大学・東海大学　p 4
○ＯＤ問題　・・・　広島大学　原子核　p 5
○地方大問題　・・・　広島大学　素粒子　p 7
○ＫＳＳ　・・・　東北大学　素粒子　p 8
　将来計画　・・・　広島大学　理論研　?
×Ｍ大問題　・・・　お茶の水女子大学　p 9
○Ｍ大連　・・・　埼玉大学　素粒子　p 10
○若手活動　・・・　京都大学　p 12

夏の学校準備校

大阪大学

夏の学校開催日程

１９９０年度原子核三者夏の学校を下記の通り開催する。

場所：長野県　戸隠村　中社

期間：７月２０日（金）－７月２６日（木）

宿：4けんつづき
コーギ、[illegible]（今年日程）

今後の活動計画

上記開催日程を考慮して、今後具体的に準備を進めていく。

主な活動予定は、

１０月　仮契約

'90 ６月　本契約

７月　直前の準備・開催

である。

学体センター議案書

神戸大学素粒子論若手

大学審議会は、昨年１２月「大学院教育の弾力化について」と題する答申を行った。現在、なお活動中である大学審議会では、大学院の問題など我々にって直接関係する事が議論されている。

そこで、今期の学体センターでも、昨期の活動方針を引継ぎ、大学審議会の活動に注目し関連の資料を収集、分析し、学体センターニュースとして提供してゆく予定である。

また、夏の学校で要請のあったＳＳＣの問題など、我々にとって重要と思われる情報があれば、その事も掲載する。

私大問題議案書

千葉大学
東海大学

（１）経緯

私大問題に関する調査は、１９８４年、日大W．Gにより「大学院の活動状況と研究環境」についてはじめて実施され、１９８５年、早大W．Gによって「私大問題資料」が作成された。

両大学W．G及び、その後の私大問題担当校の調査の結果から現在得られている結論としては、「私大問題とは単に私大のみがその内部に抱えた問題ではなく、日本の学術体制上の問題である。」というものである。

現在挙げられている大きな問題としては、研究環境の劣悪さの問題や、図書館利用に関する不平等の問題、国立共同研究所を利用する上での障害の存在の問題等がある。昨年度は、名大及び立大W．Gによって私大問題の経済面からのアプローチもなされた。

（２）活動方針

(1)研究環境の劣悪さの問題を除いた問題のなかには、現在では改善されたものも幾つかあるのではないか？という観点から再調査を行ない現状を把握する。

(2)研究環境の劣悪さについては、現状を調査し、私大、国公立大相互の認識を深める。

ＯＤ問題議案書　　広島大学（原子核）

【活動方針】

ＯＤ問題は、単にＯＤ個人の就職問題に留まるものでなく広く政府の教育政策・学術体制の一般にかかわる問題であるとの立場から、これまで若手内でも議論されてきた。しかしこの問題についての意識が広く若手の間に持たれているとは言い難い。ＯＤ問題は一朝一夕で簡単に解決するような問題ではなく、広い視野と長期的な展望に立った対応が望まれている。こうしたことから若手内でこの問題に対する意識を高め、議論を喚起することが必要であると思われる。

以上のような観点から今期は特に若手内での啓蒙的な活動に重点を置く方針である。そのためにＯＤ問題のこれまでの経緯を振り返り、それらを資料の形で提供できるように努める。同時に、この問題をめぐる新しい動きについての情報の収集と広報を行なう。

【具体的な活動内容】

1．ＯＤ問題についてはこれまで若手内でもたびたびアンケートが実施・報告されており、また「ＯＤ白書」、日本科学者会議編の「オーバードクター問題」などのまとまった資料も存在する。また臨教審の答申など政府のこの問題に対する対応を示している資料もある。しかしこれらの資料が充分に活用されているとは言い難い。我々今期担当校は、これらの資料を通じてＯＤ問題のこれまでの経緯と現状について学習すると同時に、これらの抜粋や新たに整理し直した資料などをセンターニュース等を通じて紹介していくつもりである。

2．ＯＤ問題をめぐる新しい動き、特に政府の大学審議会・中教審などの活動の中でこの問題に関連する事項について情報を収集し、随時センターニュースに掲載する。

【参考】

ＯＤ：大学院博士課程に３年間在籍した後、就職の意志を持ちながら定職が得られず無職のまま研究を続けている人たちのこと。これらのＯＤは、やむを得ず、博士課程に３年以上在籍している在学ＯＤ、卒業して研究生・研修員等の身分になり大学に研究料・研修料を納めながら研究を続けている者、国内の研究機関や大学で奨励研究員等の身分にある者、国外に出てＰＤＦ（ポスト・ドクトラル・フェローシップ）等を受けつつ研究している者、そしてどこにも籍のないものに分けることができる。（「ＯＤ白書」より）

ＯＤ問題：すでに一定の研究力量を身につけ、年齢的にも27才以上のＯＤたちが、経済的にも身分的にも確定しない不安定な状態に置かれているという現状。このようなＯＤは全国に5000人以上も存在する（1981年の調査／「ＯＤ白書」より）。このような事態は客観的にも異常であるが、さらに、一方では大量の若手研究者層が無給どころか、授業料や研修料を支払いさえして研究を続けており、他方では、若手研究者の不足が研究・教育上に深刻な影響を与えているという矛盾が指摘されている。このようにＯＤ問題は単にＯＤ各人の就職問題としてのみ考えられるべきものではなく、我が国の学術研究、高等教育上の問題と、密接にかかわっているのである。

「ＯＤ白書」：「ＯＤ問題の解決をめざす若手研究者団体連絡会」（略称「ＯＤ連」）が1981年５月に行なった全国一斉アンケートを基に作成した報告書。ＯＤ問題についての詳しい資料である。「ＯＤ連」は全国大学院生協議会・原子核三者若手・生化学若い研究者の会・生物物理若手・天文天体物理院生の会・物性若手・日本科学者会議若手研究者問題委員会によって構成されていたが、現在は活動していない。

参考文献：「オーバードクター白書　－全国一斉アンケート調査報告－」
ＯＤ問題の解決をめざす若手研究者団体連絡会　1981．11

「オーバードクター問題　－学術体制への警告－」
日本科学者会議編　1983　青木書店

地方大学問題活動方針　　広島大学素粒子論研究室

地方大学は人がいない、経費がたりない、研究のActivityがあまり上がらないなどの問題点が過去のアンケートにより調べられてきた。しかしもう少し深く地方大学のおかれている現状と問題点を明確にすべきである。例えばどのくらい中央の大学との研究の環境に格差がありどの程度の事が改善していけるかを考えたい。その一環として、素粒子論グループの地方大問題懇談会の２０年に及ぶ活動と情報の蓄積を勉強し（もちろん、スタッフの立場からみた現状であり、大学院をふくめた若手すべてをつくしているとは言えないがよい資料になると思う。）そしてその結果を公表し、問題意識を深め、意見を交換してなんらかの解決策を議論したい。
また北大の人が　地方大学と東大の理学院構想との関係をアンケート調査されているので　引きつずき　情報を、まとめたい。

責任者　Ｄ１　三谷　宣博

秋の総会・議案書

ＫＳＳ（科学者の社会的責任）：年間活動計画について

担当校：　東北大学素粒子論若手

今日の社会において科学的研究の諸産物が、大きな役割を果たしている事は、否めない。それは工業技術の発達を通して、我々の社会に多大なる恩恵をあたえてきた。今後その役割は、ますます増大するであろう。しかし、一方で科学は、いろいろな弊害を生みだしてきた事も事実である。核兵器や環境問題など例をあげれば、きりがない。この様に、科学が、社会に巨大な影響を及ぼしている現代社会に於いては、科学者自身も科学の持つ社会的影響や科学のありかたについて、常に注意を払わなければならない。

以上のような認識に基づいて三者若手では、科学者の社会的責任（以下ＫＳＳ）の問題を考えてきた。我々もこの活動を継承し、次のような年間活動を予定している。

１）　アンケートによる若手部内でのＫＳＳ問題に対する意識調査を行う。

２）　調査結果に基づいて必要な情報の収集や学習を行い、それらの成果を若手部内に広報する。

これらの活動を通じてＫＳＳ問題に対する認識を深め、若手活動の活性化を計るように努めたい。

予算：　２０、０００円　・・・・・　主にアンケートを実施するのに使う予定である。

Ｍ大問題

（担当校：お茶の水女子大学）

Ｍ大に関する問題（研究環境が悪い、Ｄ．Ｃ．編入が難しい等）に対してアンケートをとり、各大学の認識を深める。

以上

M大連　議案書

'89 秋　　M大連事務局　埼玉大

今年の夏の学校におけるM大連総会では、最近のM大連活動の低迷の問題を軸にして、今後のM大連のあり方について活発な議論がなされた。これは、参加者が少ないため総会の開催さえままならなかったこれまでの状況と較べて画期的なことであった。これも、「新D大はM大連から抜けてもいいのではないか。」「今の状況を考えるとM大連は廃止すべきである。」などのM大連の存続にかかわる問題提起をもすることによって、M大連を崩壊の危機から救おうとしてきた前事務局の真剣な取り組みのおかげであろう。

夏の総会の参加者による議論の結果として活動方針はだいたい定まっているので、その報告を行う。

1．夏のM大連総会の報告

なんのためにM大連があるのかという問題については、「いわゆるM大問題というものが存在するのは一つの事実である。M大問題とは結局は大学間格差の問題であって、例えば、旧帝大とM大とでは研究・教育環境に隔たりがあるわけだが、それは決して大学間の自由競争の結果ではなく、政府の文教政策の結果である。M大連の第一義的な存在意義は、このM大問題を少しでもなくそうとすることにある。少なくとも、こういった問題意識は持って活動すべきである。」という意見もでたが、「そういう理念はおいて、それよりもM大の間の交流を深めることが主目的である。」という考え方が大勢をしめた。

次に、各ルーチンワークをどうするかの議論に移った。昨年度は、M大連の活動に参加してもらう大学を多くしようということで、就職体験アンケートを増やし、その他は例年どうり、D大編入実施アンケート・DC編入体験アンケート・進路追跡調査・研究室紹介を行った。ルーチンワークについて、アンケートの回答率が悪い、M大連は新D大が中心でM大の参加がほとんどないという状況なので「M大生の役に立っていないのではないか。」「そういうアンケートをしても意味はない。」といった議論が、M大連の存続の是非とからんで、これまでになされてきた。今回の総会でも、DC編入体験アンケートの担当校から、「有効な回答は二つしかなく、それも例年同じような内容だから、そんなものはやらなくてよい。」という意見があった。そこで、これまでの慣例にとらわれず、交流・情報交換を活動の中心にすえて、必要なものを選び出していこうということになった。

D大編入アンケートは、M大にとってDC編入の問題は避けられないことなので、当然、残された。DC編入体験アンケートは、回答の内容が例年同じようだといってもそれを読む人は毎年違うのだからということで継続し、D大編入アンケートと同時に行うことになった。進路追跡調査と就職体験アンケート

は、「プライバシーの侵害になるのではないか。」「就職の情報は他から得ることができる。」などの意見も出され、あまり意味がないということで、やらないことになった。研究室紹介は行い、それとは別に、原子核三者の行う研究紹介よりはもっとくだけた感じの“最近考えていること紹介”のようなものを、時期をずらして作ることになった。

以上が夏の総会の報告である。長時間にわたって議論を交わした結果、総会参加者の総意としてこれらのルーチンワークをおこない、M大連を続けていこうという雰囲気ができた（と思うのは私だけだろうか）。

2．ルーチンワークの担当校

夏の学校で次のように決まりました。

事務局　：埼玉大学（サポーター役として金沢大学）
D大編入アンケート（編入体験アンケートを含む）：奈良女子大学
研究室紹介　：茨城大学
“研究・最近考えていること紹介”　：富山大学

3．事務局から

今年の夏の総会でも、結局は、参加者のほとんどが新D大であった。M大連を中心的に担うのは、やはり、M大であるのが本来の形であろう。といっても、M大では、DC生がいないため若手活動の継承が途切れがちであり、M大連の存在自体を知らない人も多いようである。そこで事務局では、M大連の宣伝から始めて、M大連総会・M大連活動への参加、また、夏の学校への参加を呼びかけていこうと考えている。M大の、M大による、M大のための、M大連を作りましょう。

若手活動議案書　　京都大学

【若手活動について】

我々若手にとって，研究の上でも，また研究を離れたところでも，互いに交流を深め，情報を交換することは非常に有意義なことである．しかしながら実際は，全国にまたがる組織『原子核三者』を持っているにも拘らず，充分な交流がなされているとはいい難い．これは一つには，交流の機会が絶対的に不足していること，また折角そのような場を設けても様々な要因でそれが充分活用されていないことによると思われる．さらには，この種の活動につきものではあるが，活動の継承・継続性の問題がある．このような認識に基づき，若手活動の在り方や継承に関する問題を扱うのが『若手活動』のサテライトである．

【過去の活動】

過去においては主に研究上の交流を促すべく，次のような諸 abstract がほぼ年一回の割合で編集・発行されてきた：

① 論文 abstract ＝ 最近出された論文の abstract と掲載雑誌の紹介，

② 研究 abstract ＝ 最近の研究で論文としては未提出なものの概略の紹介，

③ 修論 abstract ＝ 修論の abstract の紹介．

また年数回の『センター・ニュース』を通して随時，情報交換が図られた．

【今期活動方針】

今期若手活動担当校では，過去の活動を継承し，①②③の編集・発行を行って，若手の交流の場を提供していきたい．

また若手活動全般の活性化について，例えば"三者体制の見直し"の可能性といったものも含めて，なんらかの活動をしてみたいと考えてはいる．

【おまけ】

若手活動の activity が低下しているといわれて久しい．また最近は，現在の三者体制の是非も含めて，若手活動の意義（意味）を問う声もきかれるようになってきた．実際それらの中には，単なる認識不足から生じたものも多いように見受けられるが，むしろそれ故に率直な意見も含まれていると思われる．

現在の三者体制は 1986 年の夏の学校三者総会（ちなみに於戸隠）で決定されて今日に至っているものである．もし現体制に問題点があるのなら，そろそろ見直しの時期にきているのでは？なんて思う今日この頃であることだよ．

なおこの点については，今期担当校内でもほとんど議論ができておらず，従って実際にこのような活動が為されるか否かについては，現時点では何もいえません．悪しからずご了承下さるよう・・・（あまり期待しないでね）